

経営健全化進捗状況

経営管理指標		計算式	平成21年度実績 a	平成22年度見込み b	差引き増減 b-a	平成23年度見込み c	差引き増減 c-b	平成24年度見込み d	差引き増減 d-c	指標解説
収益性	医療収支率 %	(医療収益÷医療費用)×100	91.8	102.4	10.6	105.2	2.7	104.7	-0.4	病院における医療活動の成果。(100%以上黒字)
	経常収支率 %	(経常収益÷経常費用)×100	90.7	98.7	8.0	99.8	1.0	100.3	0.6	病院において経常的に得られる収益(医療収益+医療外収益)と発生する費用(医療費用+医療外費用)の割合(100%以上黒字)
	入院患者1人1日当たり診療収益 円		37,107	39,375	2,268	39,633	258.0	40,018	385.0	
効率性	人件費率 %	(給与費÷医療収益)×100	64.5	60.1	-4.4	57.5	-2.6	57.3	-0.2	人件費の医療収益に対する割合。給与費の変更は難しいが、医療収益を増加させることにより比率を下げる事が可能である。
	委託費率 %	(委託費÷医療収益)×100	7.6	7.0	-0.6	7.2	0.2	8.2	1.0	委託費の医療収益に対する割合。給与費の変更は難しいが、医療収益を増加させることにより比率を下げる事が可能である。
	材料費率 %	(材料費÷医療収益)×100	20.7	17.5	-3.2	16.7	-0.7	17.5	0.8	材料費の医療収益に対する割合。材料の購入努力、在庫管理、使用の効率化により、比率の低減化を図ることが望ましい。
	入院患者1人当たり医療費用 円	(医療費用÷延入院患者数)	57,398	53,273	-4,125	50,767	-2,506	50,796	29	
	損益分岐点比率 %	(損益分岐点額÷医療収益)×100	111.7	97.0	-14.7	93.8	-3.2	94.2	0.5	収入と費用が一致し、損益がゼロになる収益の水準を損益分岐点額(収益)という。損益分岐点額(収益)を医療収益で除して得られた数値が損益分岐点比率である。比率は、100%より低いほど、収益力が高いことになる。
生産性	職員1人当たり医療収益 千円	(医療収益÷延常勤職員数)	1,098,180	1,164,148	65,968	1,129,102	-35,046	1,182,718	53,617	
	職員1人1日当たりの入院患者数 人	(1日当り平均入院患者数÷常勤職員数)	0.69	0.70	0.02	0.69	-0.01	0.73	0.04	
	新入院患者率 %	(年間延新入院患者数÷年間延入院患者数)×100	5.18	5.44	0.26	5.20	-0.2	5.55	0.4	延べ入院患者に対する新入院患者の比率(マーケティング分析、病診連携の分析)
	医療用器械備品回転率 回	医療収益÷(器械備品資産額+減価償却累計額)	0.81	0.94	0.13	1.03	0.1	1.03	0.0	医療収益と有形固定資産を比較し、医療収益に見合う固定資産の保有状況であるかを表す指標で、設備の水準を表す。
	建物回転率 回	医療収益÷(建物資産額+減価償却累計額)	0.72	0.53	-0.19	0.45	-0.1	0.49	0.0	
健全性	流動比率 %	(流動資産÷流動負債)×100	82.7	79.1	-3.6	443.6	364.5	474.2	30.6	病院の短期的支払能力(支払うべき負債に対して現金化できる資産がどれだけあるか)。一般的200%以上が理想であるが、日本の上場企業の平均は、120%超程度である。
	当座比率 %	(当座資産÷流動負債)×100	80.4	74.4	-6.0	421.7	347.4	458.8	37.0	支払いにそのまま充てることができる資産(現金、未収金等)をどれだけ準備されているかを表し、100%以上が理想である。日本の上場企業の平均は、80%超程度である。
	固定比率 %	(固定資産÷自己資本)×100	2,362	2,696	334.0	2,985	288.8	2,992	7.4	固定資産が、返済の必要のない自己資本でどの程度まかなわれているかを表す指標で、100%以下が安全性が高いといわれる。日本企業は、160%程度である。
	売上債権回転日数 日	医療未収金÷(医療収益÷日数)	3.95	3.58	-0.4	3.50	-0.1	3.64	0.1	医療未収金が平均的に医療未収金を計上してから何日間で現金化できるかを表した指標。(60日以内が望ましい)
	棚卸資産回転日数 日	棚卸資産÷(医療収益÷日数)	3.87	2.85	-1.0	0.48	-2.4	0.43	-0.1	棚卸資産(在庫)の効率を表す指標で棚卸資産が、1日の医療収益の何倍(何日分)かで表す。日数が増加すると在庫過多を示す。
	固定長期適合率 %	(固定資産÷(自己資本+固定負債))×100	1,099	818	-281.6	443	-375.0	444	1.1	固定資産を調達するための資金を、自己資本と長期借入(固定負債)でどの程度まかなわれているかを表す指標で、100%を下回らなければ危険である。日本企業の平均は、80%超程度である。
	自己資本比率 %	(自己資本÷総資本)×100	4.29	3.59	-0.7	3.24	-0.4	3.20	0.0	総資本(総資産)に対する自己資本の割合で、この比率が高いほど、病院の資本構成がよく、安全性が高い。(自己資本=BS資本、総資本=BS資本+BS負債)
成長性	売上総利益率(年度) %	(売上総利益÷医療収益)×100	-11.09	-6.26	4.83	-0.14	6.1	0.03	0.2	医療収益に対する、総利益率。(比率上昇=利益上昇)
	売上高医療利益率(年度) %	(医療利益÷医療収益)×100	-7.28	2.36	9.64	4.69	2.3	4.51	-0.2	医療収益に対する、医療利益率。(比率上昇=利益上昇)
	売上高経常利益率(年度) %	(経常利益÷事業収益)×100	-9.81	-1.28	8.53	-0.47	0.8	0.32	0.8	病院収入における、経常利益率。(比率上昇=利益上昇)